

令和元年度 学校評価アンケートの結果について

1. 学校自己評価

R 1 年度学校評価アンケート結果（生徒）

R 1 年度学校評価アンケート結果（保護者）

R 1 年度学校評価アンケート結果（教員）

※以上は別シートです。

2. アンケート集計結果概要

評価結果

（注目項目を抽出。）

※「評価」は、昨年度までの質問との比較で、◎＝年々もしくは前回より5ポイント以上向上、○＝向上、

△＝横ばい～微減、×＝年々もしくは前回より5ポイント以上減少

大項目	対 象	質 問 項 目	R 1	評価
A) 学 習	生 徒	・授業にまじめに取り組んでいる。	86.5%	◎
	保護者	・私は、馬頭高校の教育活動に関心がある。	86.6%	◎
		・家庭では、テスト前など学習に取り組むよう子どもに話をしている。	76.4%	◎
B) 特 活	生 徒	・学校行事や生徒会行事に積極的に参加している。	82.0%	◎
	保護者	・部活動に積極的に参加している。	59.4%	×
		・馬頭高校の部活動は活発であると思う。	68.9%	○
C) 生 活	生 徒	・服装指導を理解し、守っている。	84.4%	△
	保護者	・安易な遅刻や欠席をせずに登校している。	85.8%	△
		・馬高の服装指導について理解し、子どもに守らせている。	90.8%	○
D) 進 路	生 徒	・進路に関する情報は十分に提供されている。	85.7%	◎
	保護者	・生徒一人一人に応じた進路指導が行われている。	82.4%	◎
		・馬高では、進路に関する情報が十分に提供されている。	83.7%	○
E) その他	生 徒	・地域の発展のために協力をしたいと思う。	75.9%	◎
	保護者	・ふだんから挨拶を心がけている。	88.2%	◎
		・入学して良かったと思う。	75.5%	△
	保護者	・那珂川学は子ども達にとって地域を理解し将来につながる活動だと思う。	91.8%	◎
		・馬頭高校に子どもを入学させてよかった。	90.0%	◎

3. 概 説

A) 学習について

- ・授業への取り組みや提出物など、今年度も高い意識で学習に取り組んでいることのわかる結果となりました。
- ・生徒の結果として、昨年同様、テスト前の勉強はあまり積極的ではないが提出物は出す、という傾向が見られ、「赤点をとらないように」というところに学習の目標が置かれていることが感じられます。学校側も家庭学習に取り組めるよう工夫をこらしているものの、もっと積極的な学習姿勢を養う事が課題となります。

B)特別活動について

- ・部活動に関する項目が生徒において評価を落としました。部活の加入率が年々下がっており、評価の低下に繋がっています。生徒や職員減の影響が大きく、部活動が精選される中ですので、評価の低下は想定内と考えられます。しかし、保護者については評価が上がっており、学校ＨＰにおける部活動の発信が効果を上げたことがわかります。いずれにしても、教員の働き方を見直しながら、生徒の活躍の機会を増やし個性を伸ばせる場を提供できるよう考えていく事が求められます。
- ・学校行事への取り組みの様子は年々向上しています。学校祭が隔年開催から毎年の開催にもなったこともこの結果の向上につながっているのかと思います。生徒は学校生活に活力を見いだしている事がわかる結果となりました。

C)生活について

- ・服装や遅刻・欠席等の学校生活に関する項目では、全体的に低下しており、甘さが見られます。自己管理について生徒が自ら考える指導が必要です。

D)進路指導について

- ・進路に関する情報提供が今年度も多く、生徒・保護者共にそれを受け止めた結果となっています。
- ・各種資格試験は今年も年間通して行われており、興味を持つ生徒が以前よりも増えています。今年度は危険物取扱者等に合格する生徒も出ました。
- ・水産科の生徒は科の特性上、入学当初より進路に対する意識が非常に高く、同時に学校での学び甲斐も感じているようです。普通科は座学が多く、学び甲斐を体感出来ることが少なく、進路に興味を持つのも遅くなる傾向があるようです。

E)その他

- ・保護者の結果で肯定的意見が最も低かったのは、ＰＴＡ活動への関心についてでした。今年度、ＰＴＡ活動の内容が大きく見直され、活動そのものが削減されたための結果かと思います。
- ・学校のＨＰに関しては、年々評価が高まっています。昨年以上にこまめな更新が評価につながったようです。

4. 課題解決に向けての今後の対策など

- ・学習面では、昨年度の魅力化予算で導入されたＩＣＴ機材を用いながら、授業の充実化が図られています。また近年、アクティブラーニングといった新しい授業形態も積極的に取り入れられるようになり、各授業とも工夫を凝らして行っています。また教員側も丁寧に授業に取り組むよう努めており、生徒の授業への関心の高さはそのような事も要因として考えられます。授業改革が行いやすい環境が整いつつあるので、積極的に勇気を持って取り組んでいきたいと思います。
- ・また、普通科でも水産科の生徒が感じているような、学び甲斐を感じられる授業を目指しています。今年度で４年目となる「那珂川学」は、保護者間でも理解が広がりその多岐にわたる活動には評価を頂いています。今年度からは、新しい科目「総合的な探究の時間」とのコラボレーションが始まり、教員生徒共に手探りながらも答えのない課題に取り組んでいます。自分の力で課題を見つけ、解決の為の行動を自ら起こすことで教科の学習効果も高まるという研究結果も出ているので、この学習に期待したいところです。
- ・ＰＴＡ活動に関しては、会員の皆様のライフスタイルに合わせた活動について見直しを行っているところです。